

平成30年度 学校評価状況の分析・改善 (7月実施) 白山市立鳥越中学校

※ 評価の観点による実現状況の達成度判定基準は、A～Dの4段階の基準で評価したものである。
 [A…よくあてはまる, B…あてはまる, C…あてはまらない, D…まったくあてはまらない]

※ 判定は、学期の業務遂行状況を教職員による学校評価アンケートや生徒・保護者アンケートの結果をA～Dの4段階の判定基準で評価したものである。また、その分析や改善結果・学校関係者評価について記載した。

「よくあてはまる」で評価
 ()内は「よくあてはまる」
 「あてはまる」合わせたポイント

A…とても良好
 B…良好(目標)
 C…検討が必要
 D…再検討・改善

重点	経営ビジョン	具体的な取組 (重点目標)	項	評価の観点	基準	7月	12月	結果分析・改善	学校関係者評価	次年度に向けて
1 学校経営の充実	学校評価を生かした学校経営の充実	【1. 教育目標・めざす生徒像】 (豊かな心と向上心にあふれる生徒の育成) ○4つの生徒像の実現 ・自ら進んで学習する生徒 ・互いの良さを認め高め合う生徒 ・心と体を鍛える生徒 ・ふるさとに誇りを持つ生徒 【2. 具体的な取組(Plan)】 ○4つの生徒像の実現に向けて各分掌で取り組む ・確かな学力の育成 ・共感的な生徒指導 ・主任の機能化	①	【成果指標】〔生徒〕 学校へ行くのが楽しい。	A-90% B-80% C-70%	88% B		○7月評価(Check) 【評価・分析】 「学校に行くのが楽しい」という項目では生徒、保護者、教職員いずれの回答においても概ね満足できる結果となっている。一方、「あてはまらない」「まったくあてはまらない」という回答が、生徒は12%で、人数に換算すると8人である。この生徒たちがどのような場面で「楽しくない」と感じているのか観察していく必要がある。「困ったときに相談できる(できそうな)先生がいる」という生徒の項目においては72%となり、目標としていた80%に到達していない。しかしそれ以上に「あてはまらない」「まったくあてはまらない」が合わせて28%いるということを重ねて受けている。 【7月評価時点での成果と課題】 生徒一人一人を日頃からよく観察し、長所や努力しているところを見取ったり、悩みに気づいて声をかけたりするなど、いざというときに相談できる関係を教師自身が作っていくことが大切である。また、生徒の情報や共通理解し、どの教職員も相談に関わることができる場の設定や相談体制の見直しを図ることが考えられる。保護者に対しては、今後も学校の方針、取組等を通信を通して発信するとともに、保護者の声に耳を傾ける等、家庭との連携を進めていくことが必要である。 ○目標・計画の再設定(Action)	(前期) 「困ったときに相談できる先生がいる」の評価がCとなっているが、「あてはまらない」と回答している生徒は自分のことを理解してほしいというサインを出していると解釈することもできる。思春期の中学生が「困ったときに相談できる先生がいる」という項目で「あてはまる」72%は低い数値とは思われない。教師以外に親や友人など相談できる人がいれば良い。	
			①	【成果指標】〔保護者〕 子どもは、学校へ行くのが楽しそうである。	A-90% B-80% C-70%	85% B				
			1	【成果指標】〔教師〕 生徒は、学校に来るのが楽しそうである。	A-90% B-80% C-70%	100% A				
			②	【成果指標】〔生徒〕 困ったときに相談できる(できそうな)先生がいる。	A-90% B-80% C-70%	72% C				
			②	【成果指標】〔保護者〕 親が困ったときに相談できる(できそうな)先生がいる。	A-90% B-80% C-70%	83% B				
			2	【成果指標】〔教師〕 生徒が困ったときに相談できるような声かけなどをしてしている。	A-90% B-80% C-70%	86% B				
			③	【成果指標】〔生徒〕 先生はよく見てくれたり声をかけたりしてくれる。	A-90% B-80% C-70%	87% B				
			③	【成果指標】〔保護者〕 教職員は子どものことをよく見て声をかけたりしていると思う。	A-90% B-80% C-70%	90% A				
			4	【成果指標】〔教師〕 いじめの防止に積極的に取り組んでいる。	A-90% B-80% C-70%	100% A				
			6	【成果指標】〔教師〕 主任を中心に組織的に学校が動いている。	A-90% B-80% C-70%	100% A				
2 確かな学力の形成	自ら進んで学習する生徒の育成 「知」	【1. 達成された姿(ゴール)】 ・授業で学習内容の見直しを持ち、ふり返ったりすることができる生徒 ・授業に意欲的に取り組んでいる生徒 【2. 具体的な取組(Plan)】 ・見直し・ふり返る学習活動の研究 ・校内研究授業の充実	⑥	【成果指標】〔生徒〕 授業で学習内容の見直しを持ち、ふり返ったりすることができる。	A-60% B-50% C-40%	51(90) B		○7月評価(Check) 【評価・分析】 「見直し・ふり返り」の項目では、「よくあてはまる」と答えた生徒が51%に達した。「意欲的な取り組み」の項目では、97%の生徒が「あてはまる・よくあてはまる」と答えたが、「よくあてはまる」と答えた生徒は39%にとどまった。自信を持って意欲的に取り組んでいると言える生徒が少ない。 【7月評価時点での成果と課題】 各教科において単元見直し表を活用した、見直し・ふり返りのある授業に取り組んだ成果と言える。しかしまだ10%の生徒は、見直しを持つことができていない。学習意欲にもつながるよう、生徒一人一人の「わかった」を大切に授業づくりをしていく必要がある。 ○目標・計画の再設定(Action)	(後期) 小学校と傾向が似ているように感じられる。子ども達が「自分は頑張っている」と自信を持って言えるように自己肯定感を高められる声かけなどをしていくことが大切である。それが思考力・表現力・判断力の基礎となり、学習への意欲につながるのではないかと。	【評価を終えて】 【求める生徒の姿】 ・授業で学習内容の見直しを持ち、ふり返ったりすることができる生徒 ・授業に意欲的に取り組んでいる生徒 【具体的な取組】 ・見直し・ふり返る学習活動や個に応じたの手立ての充実
			9	【成果指標】〔教師〕 生徒が学習内容の見直しを持ち、ふり返ったりすることができるよう取り組んでいる。	A-90% B-85% C-80%	86% B				
			⑦	【成果指標】〔生徒〕 授業に意欲的に取り組んでいる。	A-40% B-35% C-30%	39(97) B				
			7	【成果指標】〔教師〕 分かりやすい授業を工夫している。	A-90% B-85% C-80%	100% A				

重点	経営ビジョン	具体的な取組 (重点目標)	項	評価の観点	基準	7月	12月	結果分析・改善	学校関係者評価	次年度に向けて
2	確かな学力の形成	自ら進んで学習する生徒の育成 「知」	⑨	【成果指標】〔生徒〕 学んだことをふり返ったり次の授業を見通した勉強を家でしている。	A-60% B-50% C-40%	38(88) C		○7月評価 (Check) 【評価・分析】 「よくあてはまる」「あてはまる」と答えた生徒は88%だったが、「よくあてはまる」と答えた生徒は38%であり、目標には到達しなかった。家庭学習ノートの取り組みはしているが、授業に直結する予習復習を家庭学習で行うということが十分に定着していないのではないかと考えられる。 【7月評価時点での成果と課題】 今後も、家庭学習ノートの推進を進める一方で、具体的にどんな予習復習を行ったらよいか、家庭学習の方法を教えるなど個別の指導を行ってきたい。 ○目標・計画の再設定 (Action)	(前期) 家庭学習については授業で学んだことをただやっているだけでやらされ感が強いことが考えられる。家庭学習の大切さを知り、自分から「やるぞ」という気持ちを持たせることが必要である。親としては褒めてやるのが大事だと思う。 (後期)	【評価を終えて】 【求める生徒の姿】 ・復習や次の日の予習に取り組める生徒 【具体的な取組】 ・一人一人の学習到達状況を確認し、さらに意欲を引き出すための新たな取組
			⑦	【成果指標】〔保護者〕 子どもは、家庭学習をしている。	A-85% B-75% C-65%	83% B				
			11	【成果指標】〔教師〕 家庭学習の習慣化のための取組をしている。	A-90% B-80% C-70%	100% A				
3	豊かな心の育成	心と体を鍛える生徒の育成 「徳」	⑬	【成果指標】〔生徒〕 友達の良い行いや長所を見つげることができる生徒	A-65% B-50% C-35%	57(97) B	○7月評価 (Check) 【評価・分析】 生徒、保護者、教師すべての観点で概ね高いポイントとなっており、家庭と学校双方から相乗的に働きかけがなされていると考えられる。「友達の良い行い」の項目に関しては、B判定であるが、「よくあてはまる」と答えた生徒の割合は、他の質問に比べてとても高くなっている。 【7月評価時点での成果と課題】 生徒同士が良いところを見つけ発表し合う「とりごえもの羽」について、生徒の意識が高くなっていることが見て取れる。この活動を行うことにより、生徒の自己有用感を育て、他者への思いやりが自然と生まれるように進めていきたい。 ○目標・計画の再設定 (Action)	(前期) お互いの長所や短所を認め合う思いやりが生まれる。認められ、褒められるとやる気につながるのではないかと。 (後期)	【評価を終えて】 【求める生徒の姿】 ・互いのよい行いや長所を見つげることができる生徒 【具体的な取組】 ・毎日の生活を通して教師による働きかけの推進 ・他者に対する思いやりの心を育てるための道徳授業の取組	
			⑩	【成果指標】〔保護者〕 子どもは、友達の良い行いや長所を見つげることができる。	A-90% B-80% C-70%	92% A				
			18	【成果指標】〔教師〕 互いの良いところを見つげ、伝え合うための指導を行っている。	A-90% B-80% C-70%	100% A				
			⑭	【成果指標】〔生徒〕 友達に対して、思いやりの心で行動している。	A-95% B-85% C-75%	94% B				
			⑪	【成果指標】〔保護者〕 子どもは、友達に対して、思いやりの心で行動している。	A-90% B-80% C-70%	93% A				
			19	【成果指標】〔教師〕 道徳の授業を要した道徳教育の工夫で、生徒に思いやりの心が育ってきている。	A-95% B-85% C-75%	88% B				
4	健全な体の育成	心と体を鍛える生徒の育成 「体」	⑮	【成果指標】〔生徒〕 きちんといきさつしている生徒 自律清掃(無言、見つけ)を通し、自分の心を磨いている生徒	A-60% B-45% C-30%	46(92) B	○7月評価 (Check) 【評価・分析】 全校生徒の92%が「よくあてはまる」「あてはまる」と回答しており、自律清掃により心が磨かれていると感じていることがわかる。特に「よくあてはまる」と答えた生徒の割合は4月の実態把握調査よりも16%伸びた。平素の教育活動の成果があると思われる。 【7月評価時点での成果と課題】 「よくあてはまる」と答えた生徒の割合はまだ50%に達していない。「あてはまらない」「まったくあてはまらない」という回答が昨年度に比べ減少したものの、7%の生徒が「あてはまらない」と答えている。 ○目標・計画の再設定 (Action)	(前期) 使用した場所を自分達できれいにすることは大事である。 (後期)	【評価を終えて】 【求める生徒の姿】 ・大きな声、丁寧な所作によるいきさつしている生徒 ・自律清掃で自分の心を磨いている生徒 【具体的な取組】 ・生徒会執行部を中心としたいきさつ運動の実施 ・全校集会での自律清掃に関する共通理解 ・学級日誌への振り返りの記入と記入内容の全体への還元	
			24	【成果指標】〔教師〕 自律清掃(無言、見つけ)を通して心を磨く指導をしている。	A-90% B-80% C-70%	100% A				
5	開かれた学校	ふるさとに誇りを持つ生徒の育成 「家庭・地域連携」	⑳	【成果指標】〔生徒〕 子どもは、地域に愛着や誇りを持っている。	A-70% B-60% C-50%	65(97) B	○7月評価 (Check) 【評価・分析】 生徒、教職員の回答はとても高い評価である。これは、城山旧道整備、花いっぱい運動等、生徒が主体的に活動したこと、教職員も生徒と共に地域への貢献活動をしたことによる。生徒の掲示には愛郷心あふれるものも多く見られた。保護者評価においては、93%と、昨年度の83%を大きく上回り高い数値である。 【7月評価時点での成果と課題】 地域とのつながりが強い学校である。また、家庭からの期待も高いことがわかる。生徒の愛郷心をさらに高められるように、今後も継続して地域の活動に参加したり、行事や授業等での地域人材の活用を進めたりして地域や家庭に対して、生徒の良さを積極的に発信していくことが必要である。 ○目標・計画の再設定 (Action)	(前期) 地域やまわりの大人達が地域に愛情を持っているから、その空気を子ども達も感じてこのような高い数値につながっている。 学校にこれほど協力的な地域はなかなかないと思う。小学校にしかできない地域の学習があると感じた。小中が連携してそれぞれが地域の学習をしていく必要がある。地域の農業方式や治水の歴史なども是非学ぶ機会を持ってほしい。 (後期)	【評価を終えて】 【求める生徒の姿】 ・地域に誇りを持つ生徒 【具体的な取組】 ・地域教材を発掘し、地域の方々との連携によるふるさと教育の推進 ・積極的な地域行事への参加	
			⑯	【成果指標】〔保護者〕 子どもは、地域に愛着や誇りを持っている。	A-80% B-70% C-60%	93% A				
			28	【成果指標】〔教師〕 地域に愛着や誇りを持ってよう取り組んだ。	A-90% B-80% C-70%	100% A				